

ごあいさつ

北海道立オホーツク流氷科学センター所長
高橋修平



ようこそオホーツク流氷科学センター「所長の部屋」へ！

2014年4月に北海道立オホーツク流氷科学センター所長に就任した高橋修平です。木下誠一先生、青田昌秋先生、西山恒夫先生の後を継ぐ4代目の所長になります。これまでの著名な先生の後を継ぐには荷が重いのですが、自分なりの方法で流氷科学センターの運営に関わっていきます。

私は、2014年3月まで北見工業大学で物理や雪氷学を教えながら、南極観測隊に加わったり、ヒマラヤ、コンロン山脈、アラスカやシベリアの世界各地の氷河の野外観測を行ったりしてきました。このホームページではその活動のいくつかを紹介します。流氷科学センターにおいては、これらの経験を生かして、流氷を初め、雪や氷の魅力や科学の面白さを伝えて行きたいと思います。



北海道立オホーツク流氷科学センター
前庭には赤棒と青棒の温暖化棒グラフ？



-20°Cの厳寒体験室
流氷とホッキョクグマ剥製の前で写真が撮れる。

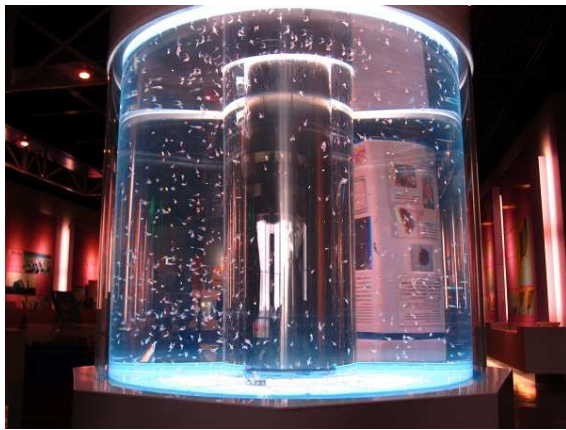
オホーツク流氷科学センターは、世界でも珍しい流氷の科学を体験・展示するユニークな科学館です。センターには次のような多くの展示施設があります。

- 1) 厳寒体験室：-20°Cの寒さを体験本物の流氷，氷漬けの魚たち，さらには南極や北極の氷が見られます。
- 2) アストロビジョン：傾斜型全天ドームで流氷の上の飛行体験ができます。
- 3) オホーツク海ジオラマ：「流氷はどこからやって来る？」が視覚的にわかります。
- 4) 海氷成長模型：氷晶から氷泥，はす葉氷，板状氷へと成長する過程
- 5) オホーツク海の2層構造：オホーツク海が凍りやすい理由の説明と実験
- 6) クリオネ展示：流氷と一緒にやってくる海の妖精，その生態と不思議
- 7) ガリンコ号模型：そのルーツはサハリン油田開発にさかのぼります。
- 8) 極地コーナー：南極・北極の観測器と解説パネルが並びます。
- 8) 流氷ダンダン：前庭の赤棒・青棒は温暖化による流氷減少を表します。
- 9) その他：氷晶発生装置，過冷却現象装置，竜巻発生装置など

ここには流氷の秘密の情報がたくさん詰め込まれていて、解説員の皆さんが丁寧に説明してくれます。ちゃんと見てまわるとあなたも流氷博士になれます。

これら展示物の他に、毎月のように各種の行事企画が行われています。とくに毎年7月に開催される「紋別わくわく科学教室」は、管内小中学の先生や气象台など関連機関の協力のもとに行なわれ、毎回 1,000 人を越える参加者があって大盛況ですので、折々の行事に是非お越し下さい。

日本の理科教育では、すぐに役立つものが重視されがちですが、自然の現象がなぜかを考える本来の自然科学が科学知識を育て、将来の理学・工学に役立ちます。流氷や雪、氷は、その本来の自然科学を学ぶのにいい材料です。センターではその雪・氷の材料を自然科学教育に生かす催し物を企画し、アクティブに参加できる題材を通して、子供達に限らず一般の方もその面白さを知ってほしいと思います。



生きた「流氷の妖精」クリオネの展示
世界一多い(多分)数の展示がされています。
何も食べずに1年間生きる所以餌代がかからない。



流氷の変化を表す「流氷ダンダン」
赤棒は気温、青棒は流氷勢力を表す。
地球温暖化が実感できる。